

仕事納め式にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

先ず始めに、先ほど職員等表彰を受けられました皆様に対し、改めてそのご功績を讃え、今後益々のご奮闘を心から期待いたします

さて今年もあっという間に年末を迎えました。

本年は平戸市にとりまして第二次平戸市総合計画「平戸市未来創造羅針盤」のスタートを切る節目としてふさわしい幾つもの事業を展開してまいりました。

その中でも「シン・平戸創造プロジェクト」の平戸観光地力向上プロジェクトに掲げた「平戸城のリニューアルと活用推進事業」は、平戸城再築城 300 周年を記念した「音と光の幻想祭」の名の下に、県内でも異例の規模でプロジェクトクッションマッピングやアクロバティックなパフォーマンスが披露され、多くの賞賛をお寄せいただきました。台風などの悪条件が重なり目標の来場者には至らなかったものの、新たな観光客層を開拓し次世代につながる可能性を確認できた事業として大いに意味を見出すことができたと思います。

また今年を振り返って、何よりも喜ばしかったことは、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録が実現したことです。長年にわたって積み重ねてきた努力が実を結んだ成果に、私たちの先祖はもちろん今日までカクレキリシタン信仰を受け継いでこられた関係者の皆様に改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。そしてこれを契機として、構成資産を守り続けていくための具体的な取り組みがスタートしたことも大きな話題となりました。

「春日集落」においては拠点施設「かたりな」がオープンし地元の方々の心温まるおもてなしが多くのお来訪者の共感を得ていますし、棚田米を活用したお酒やお菓子などの新商品が次々と開発され、地域を応援する仕組みも出来上がっています。そして11月からスタートした棚田のライトアップ事業「春日の祈り」は大変好評により期間を延長して年末年始の帰省客をお迎えするために1月6日まで実施することといたしました。

一方「中江ノ島」については、生月町の有志によるクルーズ船「オーロ・生月・サリー号」が就航することとなり、聖地である中江ノ島のみならず生月大橋周辺や生月島の西側の絶景ポイントも周遊できる新たなサービスも展開されることになりました。

こうした取り組みはまさに住民主導による先導的なモデルとして継続してい

ただかなければなりません。今後なお一層応援していただける多くの皆さんに呼びかけてまいりたいと思います。

さらに世界文化遺産登録を記念して開かれた西本智実さんによるコンサートは圧巻でした。カクレキリシタンの祈り「オラショ」とグレゴリオ聖歌の見事なコラボレーションや白鳥の湖など馴染みのある楽曲を素晴らしい演奏によって多くの聴衆を魅了していただきました。西本さんに対し改めて感謝申し上げますとともに六年連続のバチカン国際音楽祭でのご活躍をお祝い申し上げたいと思います。

それから相変わらず「平戸の恵み」の魅力は多くの首都圏の方々の評価を得ています。

恵比寿三越において期間を区切って展開されていた「平戸マルシェ」は引き続き契約を延長して営業されていますし、本年はその場で新鮮な魚介類を味わえる「海鮮丼屋～平戸瀬戸市場」がオープンし高い評価を得ることができました。さらに全国のアンテナショップがひしめき合う有楽町交通会館ビルに「有楽町ひらど商館」がオープンしました。北海道や東北・北陸地方さらには沖縄や九州各県など有名産地による激戦区として注目される人気スポットですが、その中であって売り上げ好調の実績を収めているようです。

そうした「美味しい平戸」の産地としてのイメージが広がりつつある中、福岡を本社にするモロフジグループさんが「地のものファーム」を田平に立地し、水耕栽培による葉物野菜の生産拠点をスタートしていただきました。また、「茅乃屋のあごだし」で世界的に有名な久原本家さんの呼びかけにより、九州アゴ文化推進委員会が本市を含む新上五島町、屋久島町の3自治体が協力し、先週福岡において発足セレモニーを開催しました。

一方、平戸の海で育てた本マグロやトラフグを提供しておられる東京一番フーズさんは、その後も着実に事業を拡大され、現在ニューヨークにおいても店舗展開をされ、お店には『平戸』の文字が大きく掲げられ、平戸ならではの味と魅力は経済大国アメリカにも広がっているようです。

こうした有力な民間事業者によって、ますます平戸の美味しい価値が評価されていく確かな手応えが伝わっています。

そして本年は遂に大容量光通信網が市内全域に張り巡らされ、情報インフラの一定の整備ができあがりました。相互の情報収集・発信が可能になることでそれぞれの地域の魅力を多くの人に伝えることができ、現在市内 12 の小学校区で結成されているまちづくり運営協議会も独自の個性あふれる活動など頑張っておられます。

このような良い意味での競争と共生が図られ、わが町の魅力を発信することで多くの移住者の共感も得られます。本年度のU I ターン者は、すでに 110 名を超え、毎年記録更新を続けています。これらの実績は、本市独自の制度や担当者の努力の結果でもありますが、今後さらにこれらの数を増やすためには何よりも受け入れる側の住民の皆さんの優しさや温かさなどの心配りが重要です。人口減少が顕著な現状にあって、こうした傾向を維持し実践していくことこそが地域の原動力そのものでもあります。

時代の流れとともに行政課題も変容し、解決に向かうニーズも多様化しています。それらに立ち向かうためには、伸びやかな発想や柔軟な思考が不可欠です。今こそ職員一丸となってさらに向上心を抱きつつ、これまで以上に謙虚で真摯に業務に向き合い、常に初心を忘れず市民のために判断し行動できるよう心がけていただきたいと思います。

さて年末年始はご家族やご友人ともゆっくり語らいながらのひと時で英気を養う機会に恵まれることと思います。

一時的に職場から解放されたゆとりの中ならではの、ひと味ちがったふるさとの将来を描くアイデアやヒントが得られる有意義な時間となりますよう期待しています。

例年申し上げていることであり、皆さんそれぞれに自覚をお持ちではありますが、くれぐれも飲酒運転だけは絶対にしないよう固く心に刻んでください。

最後になりましたが、本日は大久保議長、山田副議長はじめ議員各位にはわざわざご臨席を賜りご激励をいただきましたこと誠にありがとうございました。

来年も引き続きご指導ご助言くださいますようよろしくお願い申し上げます。

以上をもって仕事納めのご挨拶と致します。
終わります。

平成 30 年 12 月 28 日

平戸市長 黒田 成彦